

PRAEVIDENTIA DAILY (12月20日)

昨日までの世界：対円ではFOMC後のドル高一服

昨日は、FOMC直後は横ばいだった米長期債利回りが時差を伴って上昇した中で、米ドルが対NZドルや対ユーロで続伸した一方、対円や対カナダドルでは上昇が一服・反落した。ドル/円相場は、東京時間には早朝の高値104.37円から反落し一時104円割れとなったが、その後は米長期債利回りの上昇と共に前日とほぼ同水準へ持ち直している。この間、米経済指標発表では、新規失業保険申請件数が前週の36.9万件・市場予想の33.6万件から37.9万件へ増加、フィラデルフィア連銀製造業サーベイは市場予想の10.0に対し7.0、中古住宅販売件数は市場予想の502万件に対し490万件へ減少するなど、市場予想を下回るものが多く、米長期債利回りの上昇を抑制する要因となったとみられるが、ドル/円相場などへの反応は限定的だった。

NZドルは、FOMC後に発表されたNZ3QGDPは前期比+1.4%と市場予想(+1.1%)を上回ったほか、NZ11月貿易収支も+1.83億NZドルと前日の-1.73億NZドルの赤字から一転して黒字化するなど、NZの経済指標は良好なものが相次いだ。実質実効相場でも歴史的な割高水準にあるNZドルに対して資産購入縮小開始を受けた米ドル高圧力がかかり易かったとみられ、主要通貨の中で最も対ドルで下落率が大きかった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.1	+0.03	+0.03	-0.00	+0.03	+0.04	+0.01	-0.1	+1.7	+1.0	+0.5
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.2	-0.05	-0.02	+0.03	-0.01	+0.02	+0.04	+1.7	-0.1	+0.5	-0.03
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.1	+0.03	+0.06	+0.03	+0.00	+0.04	+0.04	+1.4	-0.1		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.1	+0.01	+0.04	+0.03	+0.01	+0.04	+0.04	-0.1	-1.0	+0.4	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.6	-0.03	-0.00	+0.03	-0.01	+0.03	+0.04	-0.1	-1.0	+0.4	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.4	-0.00	+0.03	+0.03	+0.01	+0.04	+0.02	-0.1	+1.0	+0.4	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

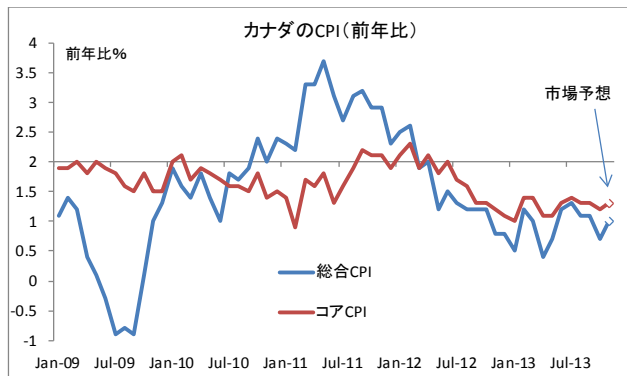
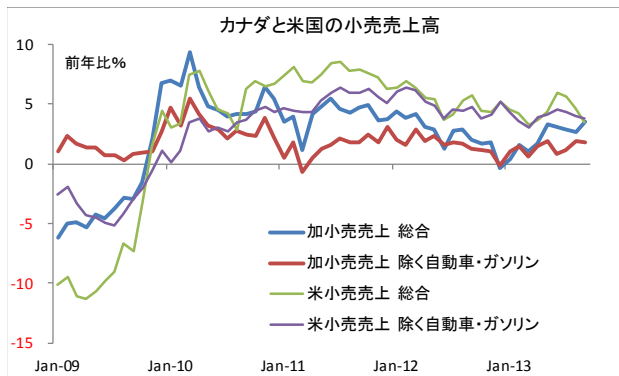
きょうの高慢な偏見：カナダドルは風前の灯 (candle flickering in the wind)

本日は来週のクリスマスを抑えて相場材料は少なく、①日銀金融政策決定会合(発表時刻未定、09年以降の政策変更なしの場合の平均発表時刻は12:26、市場予想は変更なし)、②カナダ11月コアCPI前年比(22:30、前月+1.2%、市場予想+1.3%)、③カナダ11月小売売上高(前月、市場予想共に0.0%、除く自動車前月比)、などが予定されている。

ドル/円は材料難だが、Fedの量的緩和縮小開始を受けたドル高圧力に支えられ104円台での堅調が続こう。日銀決定会合については目先の追加緩和期待が高い訳ではない中で、材料にはなりにくいだろう。

カナダではコアCPIと小売売上高が発表され、コアCPIは伸び率が上昇する予想となっており、ディスインフレーション懸念が後退する見込みで、低いものの利下げの可能性を後退させカナダドル下支え要因と言える(下図を参照)。またコア小売売上高も、前月比伸び率は横ばい予想であるものの、米国対比で前年比伸び率が下回る傾向があったが最近では総合小売売上高の前年比伸び率が+3.6%へ高まり米国にキャッチアップしてきている(下図を参照)。最近では米景気の好調の陰にかくれて注目を浴びにくい、前年比で高い伸びとなってきていることは、今後も持続すればいずれカナダ中銀のハト派スタンスの後退に繋がりカナダドル高要因となるだろう。もっとも、足許は米資産購入縮小開始からくる米ドル上昇圧力が勝っているとみられ、カナダ経済指標のインパクトは余程市場予想から乖離しない限り小さいだろう。昨日もFOMC後の米ドル高もあって、米ドル/カナダドル相場は一時1.0728ドルへ続伸し年初来高値を更新した。カナダでは住宅市場の過熱など将来的に利上げが必要となる可能性が高いものの、目先はカナダ中銀の通貨安志向や、米加金利差の緩やかな拡大傾向に沿って

て、米ドル/カナダドル相場のじり高（カナダドルじり安）基調が続き易いだろう。



**ディスクレイマー**

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。  
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。  
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641